

令和6年度第1回大田区環境審議会（書面会議） 議事要旨

【開催期間（審議期間）】

令和6年8月20日（火）～令和6年9月9日（金）

【参加委員】

奥 真美	東京都立大学 都市環境学部 教授
島田 正文	一般社団法人日本公園緑地協会 研究顧問
志々目 友博	中央大学 理工学部 教授
長谷川 紀子	公募区民
田村 昌之	公募区民
大川 由香理	公募区民
青山 明日香	公募区民
千葉 茂	東京商工会議所 大田支部
阿部 敏章	NPO 法人大田・花とみどりのまちづくり
坂野 達郎	おおたクールアクション推進連絡会
小山 君子	大田区清掃・リサイクル協議会
榊原 健司	一般財団法人大田区環境公社
河原田 光	企画経営部 施設整備担当部長
梅崎 修二	産業経済部長
西山 正人	まちづくり推進部長
遠藤 彰	都市基盤整備部長
山田 良司	環境清掃部長
今井 健太郎	教育総務部長

【次第】

- 1 委員の委嘱
- 2 委員の紹介（資料1）
- 3 区長からの諮問（資料2）
- 4 会長、副会長の選出
- 5 議題（仮称）第2次大田区環境基本計画の素案（大枠）について
※大田区環境アクションプランに基づく令和5年度実績報告 等を含む
- 6 報告 資源プラスチック回収事業の区内全域実施について

—配布資料—

- 1 通知文
- 2 概略説明書
- 3 書面表決書

- 4 委嘱状
- 5 審議会資料
 - 本紙 令和6年度第1回大田区環境審議会（書面会議）
 - 資料1 第8期大田区環境審議会委員委嘱名簿
 - 資料2 諮問文（写）
 - 参考資料1 （仮称）第2次大田区環境基本計画の素案（イメージ案）
 - 参考資料2 大田区環境アクションプランに基づく令和5年度実績報告
 - 参考資料3 東京都報道発表資料「区市町村との連携による環境政策加速化事業」

【会議の成立について】

令和6年度第1回大田区環境審議会（書面会議）は、委員総数18名から「書面表決書」の提出があったため、大田区環境審議会規則第5条の規定に基づき、有効に成立した。

なお、本審議会（書面）は、「概略説明書」をもって事務局からの説明とし、「書面表決書」をもって各委員からの表決及び意見等とする。

***** 以下、表決・意見等 *****

1 大田区環境審議会会長・副会長の選出について	
	<p>(1) 本件に関する表決</p> <p>表決結果</p> <p>本件は賛成18名、反対0名のため、賛成多数により可決とし、以下の通り決定する。</p> <p><第8期大田区環境審議会></p> <p>会長 東京都立大学都市環境学部 教授 奥 真美 様</p> <p>副会長 一般社団法人日本公園緑地協会 研究顧問 島田 正文 様</p> <p>中央大学理工学部 教授 志々目 友博 様</p>
	<p>(2) 本件に関する意見等</p> <p>意見等</p> <p>特になし</p>
2 議題（仮称）第2次大田区環境基本計画の素案（大枠）について	
	<p>(1) 議題に関する表決</p> <p>【論点①】「環境（力）」「地域（力）」「産業（力）」3つの推進力を設定する考え方について</p>

	<p>表決結果 本件は賛成 18 名、反対 0 名のため、賛成多数により可決とする。</p>
	<p>【論点②】 日常の活動シーンを施策体系とすることについて</p> <p>表決結果 本件は賛成 18 名、反対 0 名のため、賛成多数により可決とする。</p>
<p>委員 意見</p>	<p>(2) 本件に関する意見等</p> <p>【論点①】 「地域（力）」、「産業（力）」、「環境（力）」の3つの力について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの力の関係性は並列関係か、あるいは環境（力）が上位概念となるのか等、漠然としていてイメージしづらい。また、環境（力）の概念についての説明が不足している。 ・ 地域（力）の概念は区民の行動・取組に限定してしまってもよいのか、事業者や団体等も重要な地域の担い手ではないか。 ・ 地域（力）と生活の表現の統一や、区民と事業者をつなぐパートナーシップとの関係性について整理が必要ではないか。 ・ 3つの目標や3つの力を踏まえた施策の方向性の検討の中で、区民・事業者・区の各主体が取り組んでいく具体的なイメージを示してはどうか。
<p>委員 意見</p>	<p>【論点②】 日常の活動シーンの分類表現について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「しる」の中で、区民・事業者・区等が環境に関する情報を共有する仕組みとして、DX推進についての考慮も必要ではないか。 ・ 「くらす」だけでは、事業者の取組をイメージしづらいため、「くらす・はたらく」のキーワードを使ってはどうか。 <p>また、「くらす」の表現は、他の活動シーンを包含する表現であるため、説明を加えるなどの工夫が必要ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策（取組の方向性）において言葉の表現方法の工夫や具体例があると分かり易い。 ・ 資源の有効活用において、3Rに加え Refuse（選択）の追加の必要性について具体的な施策とあわせて検討してはどうか。 ・ 活動シーンにおいて、具体的な施策をイメージできるように説明を加えたり、アイコンやイラスト等で行動例とするなどの工夫をしてはどうか。

3 その他(自由意見)

(1) 国等の最新動向の把握について

生物多様性増進活動促進法、改正都市緑地法、まちづくりDX、第5次循環型社会形成推進基本計画等の今年度の最新動向についても注視する必要がある。

ウェルビーイングをはじめとする新しい概念（SWG s等）を念頭に、区民の健康や住環境に関する表現を加えてはどうか。

(2) 区民の身近な環境問題について

アンケート結果やこれまでの計画の進捗状況を踏まえ、身近な環境問題の課題を明確化し計画に反映していく必要がある。

また、呑川の水質問題、歩きたばこの問題等の身近な問題やサーキュラーエコノミーにおける進捗を的確に把握するための指標の検討等が必要ではないか。

(3) 計画本文の表記について

「サーキュラーエコノミー」等のカタカナ語の表現の工夫や誰でも分かり易い計画となるように、短く分かりやすい語意を使用するなどの工夫をしてはどうか。

(4) 進捗管理指標について

新たな指標（KGI、KPI）を設定するにあたり、妥当性の根拠を示すことで、各主体の理解が深まり主体的な取組に繋がるのではないか。

(5) 「施策（取組の方向性）別 分析/評価案」について

計画（事業スキーム）の評価は、何を基準にどのように評価するのか十分な検討が必要ではないか。また、施策の推進、行動計画の分析・評価にあたり、事業規模、内容等の実績に応じた評価方法の検討が必要ではないか

(6) パートナーシップについて

パートナーシップにおいて、学校・団体・企業などを対象の施策はもとより、生活の中心である区民を対象とした施策が重要であると考えています。区民を対象とした具体的な施策についても、引き続き議論してどうか。

(7) 資源回収プラスチック回収事業の区内全域実施について

DX推進の好事例として他の区市町村への横展開を期待する。

また、サーキュラーエコノミーの進捗を把握するために、リサイクル量/収集量の実績（年間）の推移を把握し公表する等検討してどうか。